

青い鳥

2012年
(平成24年)7月
第132号

目次

- 1…危機に備える
兵庫県社会福祉事業団 専務理事 兼
総合リハビリテーションセンター所長 吉田 裕明
- 2…事務局だより/平成23年度決算報告
- 3…平成23年度事業報告(主要事業等)
- 4…平成24年度新規採用職員研修実施/フレッシュマン紹介
こども発達支援センター、清水が丘学園竣工式
- 5…シリーズ「施設長に聞く」(万寿の家所長 杉本幸重)
シリーズ事業団事業紹介(第12回たじま荘)
シリーズ「ペンリれい」
- 6…スポーツ・文化だより
- 7…施設だより
- 8…シリーズ「おすすめレシピの紹介」(第10回丹寿荘)
掲示板



祝 兵庫県立こども発達支援センター開所

こども発達支援センター竣工式

型の東南海・南海の巨大地震が一つには「災害への備え」。海溝

私たちが医療・福祉サービス事業者はいかなる危機に直面しても事業を継続するという大きな使命と責任があります。危機とは災害や事件・事故に加え、経済、法規制、さらに新規市場参入など経営目的の達成に影響するすべてとされていますが、将来起こり得る様々な危機を想定し平時から備えをしておくことが大切です。



危機に備える

兵庫県社会福祉事業団 専務理事 兼
総合リハビリテーションセンター所長

吉田 裕明

目の前に迫っており、時間降雨量も年々記録的となつています。また悲惨な施設火災も記憶に新しいところです。実際、事業団施設の中には洪水や土砂災害の危険性の高い場所に立地しているものも少なくありません。

今やるべきことは備蓄、災害資器材の整備、スプリンクラーや非常用電源装置・井戸の設置であり、とりわけ避難訓練の実施が重要です。

事業団施設の中には市町と福祉避難所協定を締結している施設がありますが、有事の際、本来業務と避難受入れの二重業務を同時に果たす必要があり、日常から市町と連携し避難所運営訓練を実施していただきたいと思ひます。

二つには「経営への備え」。事業継続のためには経営を意識することは当然なことで、事業団は経営体である以上、サービスの質と同様に成果としての「数字」が重要です。各施設で経営目標を下回る状況が予想される



職員を対象としたAED講習(浜坂温泉保養荘)

場合には直ちに職場全体で原因分析を行い、「数字」を好転させるための組織的行動をお願いしたいと思ひます。

三つには「健康への備え」。現場は職員の皆さんが自ら選んだ道。ここで技量を磨き自己実現につなげてほしいと思ひます。そのためには一定の時間と何よりも健康体であり続けることが必要です。職場全体で定時退勤や連続休暇、また体調不良時の休養や早期受診などに取り組んでほしいと思ひます。

いよいよ夏本番。楽しみな納涼大会等恒例の夏行事も間近です。計画停電や節電など厳しい環境でありますがお互い協力し合い乗り切りましょう。